

28.8.-9

伊豆市

伊豆市議会才1委員会 行政視察報告書

梅原正次

28.7.26 岩手県洋野町役場

「東日本大震災で犠牲者ゼロの洋野町の防災対策について」

八戸駅よりJR八戸線にのりこみ 55分 種市駅に到着し、近所の食堂で昼食を済ませ 洋野町役場にて 防災対策などの説明を受けた。

1. まだ人的被害が0人だった要因は、特に漁港のある八木地区では、過去の大津波の経験から毎年3月3日に津波慰霊祭が行われ、震災の教訓を受け継いでいる事、震災前に自主防災組織が出来、地区が震災に備えていたこと。

2. 洋野町の沿岸線は26km、そのうち T.P 12m の防潮堤は6海岸で3km 近くが整備してあり 被害が食い止まり、又水門も専ら消防団が1部1水門として退避ルールも決められている、又消防団は14分団41部 563人で町職員も83名含まれ 災害対応も町の要であった。

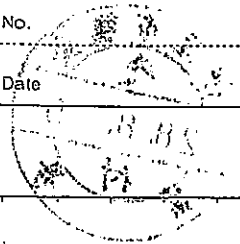
3. 3.11の大津波は地震後高台の洋野町役場から大津波が確認されたことに、大津波が予想出来、避難指示が徹底された事と津波到達まで50分位余裕があった事、人的被害0人の要因かと思われる。

説明質疑後に八木地区に案内して港、漁市場などもきちんと整備され、T.P 12m の防潮堤が420m 建設中であった。

(2) 28.7.29 岩手県久慈市役所 行政視察 「議会報告会、かたがて会議」について

久慈市議会は2014年3月に議会基本条例通称「いざいざ基本条例」を制定し、年1回以上の報告会の開催と、市政課題について市民と議員が話し合う「かたがて会議」を設け、事と規定し2014年に2回開催された。

1. 議会報告会は2012年11月に初めて実施し、2013年5月に才2回を実施、基本条例制定後の2014年7月と2015年1月にも実施している。
最近の報告会は24名の議員が6名ずつ4組を作り、2日間で8ヶ所の会場で開催された。その中で ①参加者が集まり ②参加者の大半が年配の男若者が多い、 ③特定の人だけが発言する ④行政に対する不満や陳状、要望に終始する、 ⑤会場の雰囲気か暗いなどの課題が出た。



エ. かたろく会議 (方言で「一緒に」「語る」に79)

(注) 基本条例に制定されており、2014年に2回開催された。

手探りの状態で、話し合いの雰囲気を大切にすることをモットーに、コーヒートイレ、バックミュージックをかけたまま、ワールドカクスタイルで話し合いの場を気軽に参加して、話し合いの場をモットーにする。

会議は毎回テーマを決めて進行役(ファシリテーター)により進行され、各テーマ5人程度に分かれて話し合いをする。

かたろく会議を実施している。議会報告会でも中身の内容もすばらしい結果が良かったと関係者は語っていた。これは女性も、中学、高校生にも会議メンバーとして参加を希望する様子が。

かたろく会議の取組は県内外に広がっている様子。

(3) 2017.7.27日 岩手県一戸町役場 行政視察

テーマ交通「11くへ」号 方言「いっしょ」について。

一戸町は面積300km²の62%が山林、原野であり人口13,256人、高齢化率は37.3%と高い。又冬期は降雪量も多い。

町内には路線バスが運行されているが、通学バス程度で32,492千円の補助金で運行されている。

平成15年のアンケートでは76%の老人クラブ会員が「自分の移動する交通手段は快適」との回答もあり、「テーマ交通検討委員会」を立ち上げ、H20年一戸町、タクシー3社、バス1社の計5者の共同出資により「有限責任事業組合一戸町テーマ交通(LLP)」を設立した。

地形的な特徴から定期バス等の効率的な運用が困難な地域が多く、いっしょ「戸口から戸口」に出かけられるように、外出の利便性が格段に向上したLLPは多くの高齢者の利用に繋がった。

H27年の利用者数は1日90人位、登録者数2516人であり、バス料金程度で町内4台のミニボタクシーで運行している。又予約センターがしっかり運行管理して利用者の利便性や効率の向上に努めている。

一戸町テーマ交通委託料はH27年22,245千円で路線バス補助金32,492千円と合わせて町の負担額は54,737千円と大きい。路線バスとテーマ交通の併用により町民の利便性は格段に向上した。

(4) 岩手県盛岡市行政視察

2019.7.28日9:00より「盛岡7020推進事業について」

盛岡市は東北地方オ2位の都市で県庁所在地である。

人口296,500人 面積886km²、市議会議員数38名。南部鉄器
のん:そは、最近では盛岡冷麺など有名である。盛岡市では、人口減少に伴い、平成19年から平成26年まで「盛岡7020
推進計画」を実施してきたが、市内外特に首都圏への一層の滲透を
を図るため、平成27年3月～平成31年度までの5年間の「オ20版盛岡7020
推進計画」を策定した。

1. 盛岡市には様々な価値や魅力があり市外、首都圏への情報発信強化。
2. 盛岡というまちに愛着をもつ市民の増加。
3. 観光客、修学旅行生など交流人口の増加……年間500万人目標
など力を投入。盛岡7020推進戦略会議「市民推進委員会」
「推進本部」を連携・協働して盛岡7020の推進体制を充実させていく。

岩手県内4市町を視察、石加木川代など自然価値が高く食事もおいしい
屋も多い、住みやすい街かな。